

モンゴル・ネットワークの世界デザインと〈アジア〉

—「アジアの臍」としての張家口をめぐる—

開催趣旨

現在、北京市とともに 2022 年冬季五輪の共同開催地として正式に立候補を申請している河北省張家口市は、北京の北を取り巻く万里の長城の主要門であった「大境門」のすぐ外側に位置し、ここを制したものは北方から北京を攻める場合にも北京を守る場合にも有利になるとされ、「北京の北門」とも呼ばれた戦略上きわめて重要なロケーションにある。

かつて日本が大陸侵略の前進基地として、蒙疆聯合委員会（1937 年設立）、蒙古聯合自治政府（1939 年設立）などを設置したのもそのためである。そして、日本のいわゆる「日中アヘン戦争」の重要な一翼を担った興亜院蒙疆連絡部（その経済一課課長としてアヘンビジネスを担当していたのが、後の首相、日中正常化交渉においては外相を務めていた大平正芳）が置かれたのがまさにこの張家口であり、ここが上海をはじめアジア各地とネットワークを構築していたことは、東条英機が 1943 年 9 月に東京で開催した「大東亜薬品会議」（その実態は「大東亜アヘン会議」であるとされる）の構成などからもよく分かる。そうした「日中アヘン戦争」の実態については、本学法学部の故江口圭一教授の長年の研究においてすでに明らかにされている。

今回われわれが張家口に着目するのは、まさに、その戦略的ロケーションの現代的意味の再検証のためである。中国北方から西北にかけてのさまざまな民族の交錯する地点としての張家口は、現代アジアにおける政治的、軍事的、経済的、社会的ネットワークにおいてどのような意味と可能性をもっているのか。これを考えていくためのブレインストーミングが、今回の国際ワークショップ&レクチャーの主要な目的である。

その場合、われわれは、現代世界イメージの基礎を構築した「モンゴル・ネットワークの世界デザイン」に着目する。張家口を中華儒家文明への結合点としてもったモンゴルは、その西方への拡張とともに、イスラーム世界、西方キリスト教世界をめぐる、インド洋太平洋をまわり込むように、人々のネットワーク回

路を繋げていた。20世紀の短い時期に日本がいわゆる「大東亜」を妄想できたのは、〈世界史の誕生〉の契機となったそうした広義のモンゴル・ネットワークの一端に相乗りしようとしたからであろう。

現在の中国政府が、そうしたグローバルなネットワークの歴史的な脈をよく認識して、張家口での冬季オリンピックを推進しているのかどうかは定かではない。だが、現代中国のかかえるジレンマとその解決がグローバルな文脈へ拓かれて行われていくプロセスには、中国がアジア・イメージとどのように和諧していくのかという前提が必要であるのだが、われわれはこれを「アジアの臍」としての張家口というパースペクティブから考察していきたい。(コーディネーター：鈴木規夫)

開催日程 2014年12月10日(水)～11日(木)

12月10日(水)

開会

10時～13時 ワークショップ I

趣旨説明 鈴木規夫

報告 I ボルジギン・ブレンサイン (「張家口」のロケーション)

報告 II 周星 (西北地域概念の伸縮をめぐって)

討論 オラディン・エルデン・ボラグ [中国語 通訳牛革平]

13時～14時 ランチ・休憩

14時45分～16時15分 公開レクチャー

レクチャー I 楊潤平 (張家口概観) [中国語 通訳牛革平]

レクチャー II オラディン・エルデン・ボラグ (作為 内蒙古的“首都”的張家口) [中国語 通訳牛革平]

16時15分～16時30分 休憩

16時30分～18時 公開レクチャー

レクチャー III 王建新 (ムスリムと張家口) [日本語]

コメント 加々美光行

周星

ボルジギン・ブレンサイン

質疑応答

18時30分～21時 懇親会

12月11日(木)

10時～12時 ワークショップⅡ

報告Ⅲ 松本ますみ(張家口-華北交通写真グラフ誌分析から)

討論 楊潤平 [中国語 通訳牛革平]

12時～13時 ランチ

13時～15時 ワークショップⅢ

総合討論 「アジアの臍」としての張家口

周星、楊潤平、オラディン・エルデン・ボラグ、王建新、

加々美光行、松本ますみ、他政治外交班メンバー

司会 鈴木規夫

閉会

開催場所 愛知大学名古屋校舎会議室(ワークショップⅠ〔厚生棟3階W31〕・
Ⅱ・Ⅲ〔講義棟11階1102教室〕)

愛知大学名古屋校舎講義棟L706(公開レクチャーⅠ・Ⅱ・Ⅲ)

コーディネーター: 鈴木規夫/愛知大学教授

ウラディーン・ブラグ/ケンブリッジ大学准教授

楊潤平/張家口歴史学会会長

加々美光行/愛知大学名誉教授

王建新/蘭州大学教授

周星/愛知大学教授

松本ますみ/室蘭工業大学教授

ボルジギン・ブレンサイン/滋賀県立大学准教授

研究助手: 牛革平 ICCS 研究員

共催: 愛知大学国際コミュニケーション学部アジア協同体論講座/同国際中国学
研究センター(政治外交班)/同国際問題研究所西北地域研究プロジェクト